

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「楽しく・美しく・いつまでも」とシンプルなもので入居者を始として地域の方々や家族に浸透している。運営方針では地域の中でその人らしい暮らしを支援する事を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、全日勤職員で理念を声に出し確認し合い、日々のサービスに反映できるよう取り組んでいる		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を掲示し、家族や地域の方々が訪問した時に説明している。ホーム便りにて浸透している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々と挨拶し、気軽に声をかけあえるように心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内清掃等の活動に参加したり、小学生の仕事体験学習を受け入れて交流を深めている。入居者の精神的・身体的負担に配慮し、地域活動の参加に取り組んでいる。	○	認知症から予測される失敗や精神的ストレス等に対し、十分注意しつつ地域の方々と交流に取り組んでいく。(本人・家族の希望や意見を尊重する)
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者のプライバシーに十分配慮しつつ研修生を受け入れ、地域貢献に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は、ミーティングで話し合い周知徹底ができています。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族アンケートで出席しやすい日時を、あらかじめ聞いて開催日時をお知らせし、多くの方の意見や希望を聴取し双方向的な会議となるよう心がけている。会議での議事録はホーム便り等で報告している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員から助言を得たり相談にのっていただくこともある。市担当窓口と行き来し情報交換するには至っていない		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修や勉強会などで学んでいる。家庭裁判所のビデオ・手引き・口頭での質問相談を通じて学び、必要な支援が提供できるよう取り組んでいる。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員勉強会で、高齢者虐待防止について学ぶ機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居に際しての不安や疑問について十分説明を行い、理解、納得していただくよう取り組んでいる。契約を解約する際は、丁寧に情報提供を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見・要望などが言いやすい よう日常的に信頼関係を築く努力し、速や かに対応している。 出された意見や改善の経過・結果はホーム 便りで報告する体制ができている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	法人新聞とグループホーム新聞・手紙など にて定期的に報告している（毎月 1 回） 又、必要に応じて個々に電話連絡や面会時 に報告・相談を行っている。金銭管理につ いては毎月 1 回報告している。家族からの 問い合わせがあればその都度行っている		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見や苦情を出しやすい雰囲気作 りを心がけている。法人内に苦情委員会を 設け各部署から出された意見や苦情に対 し、全職員で周知徹底できる体制がある。 出された意見等には速やかに対応し、改善 点・結果は広報誌で報告している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを行い職員の意見 や提案を出し合う場を設けている。議事録 により職員間で情報を共有している。 解決困難な事例は管理者・運営者に報告し 解決に向け取り組み運営に反映できてい る。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状況に応じて勤務調整を行ってい る 困難な場合などは、他部署からの応援が得 られる。柔軟な対応ができるよう職員間で 協力できる体制がある。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し馴染みの職員 によるケアを行っている。新しく職員が入 職する場合は、入居者への紹介をきちんと している。職員の異動などが入居者へ影響 しないように引継ぎには十分時間をとって いる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用ににあたって性別・年齢などの制限は設けていない。 職員が自分の得意な事や能力を発揮して自己実現に向け取り組めるよう配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重することの重要性を日々の介護現場で学ぶと共に、勉強会等で学んでいる。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内情報は必ず全職員に伝達し、全職員が公平に研修を受ける機会を設けている必要時は職員の経験や能力に応じ、運営者から受講を勧める事もある。受講内容は職員連絡会で伝達講習し情報を共有している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修等に参加し他の事業所との交流を通じて情報や意見交換を行っている。不定期ではあるが、相互に訪問し合い交流を図っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩は談話室やスタッフルーム内を利用している。 定期的に運営者がグループホームに足を運び職員の困り事や相談に耳を傾け働きやすい環境作りに努めている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は入居者・職員と過ごす時間を出来る限り多くとる様努め、現場での取り組みや職員の健康状態を把握している。 職員の資格取得の為の情報提供を積極的に行い、必要時は助言を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった場合は、本人の思いを尊重し、受けとめる努力をしている。 本人に事業所に遊びに来ていただき、慣れ親しんでもらうこともある。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの相談を聴き取る時間を十分にとり困っている事・不安な事等、受け止め多方面から情報提供を行うよう努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、困っている事等の状況を聴き取り、改善に向け支援している。 必要時は、他の事業所のサービスに繋げるようしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得していない場合や不安がある場合は、利用開始前に職員が会いに行き信頼関係を築くことから始め、次の段階で本人に遊びに来てもらい、雰囲気に馴染めるよう工夫し支援している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から料理や裁縫など教えてもらったり、ことわざや民謡などを一緒に楽しむ時間がある。 入居者から職員への温かい言葉かけにより職員が励まされる場面もある。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から自宅での生活習慣等を聴き取り生活支援の方向性を共有するようにしている。 毎日の生活で気付いた事や出来事を報告し家族と職員との協力支援を心がけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係が疎遠にならないよう、意思表示が困難な方には職員から日頃の状態をこまめに報告している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に出かけたり、知人や友人からの電話を取り持ち、関係が途切れないように支援に努めている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	仲の良い入居者同士が話したり、楽しく過ごせるようにテーブルの席に配慮し、関係が上手くいくように支援している。 意思疎通の困難な入居者に、他入居者が気遣い、手をつないで声をかける場面がある。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、家族からの相談にのる等関係が継続できるように心がけている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常会話や家族から、生活歴や趣味等を把握している。 表情、行動から本人の希望や意向を汲み取っている。職員間で意見交換し、本人の視点に立った支援を心がけている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅を訪問し部屋をみせていただき暮らしぶりや環境を把握する場合がある。 本人、家族との信頼関係を築く事を大切に些細な事柄でも情報を伝えてもらうよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズム等を総合的に把握できている。 毎日の介護記録には本人の言った言葉、介護者側の関わり方や本人の反応を具体的に記録し、「できる力」を支援するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や要望を聴き取り、精神的、身体的状況など多方面からチームで課題分析し介護計画を作成している。介護計画は丁寧に説明し同意を得、家族へ交付している		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを基本に、状況の変化等がみられた場合はその都度、速やかに介護計画を見直している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録に本人の言った言葉、職員側の関わり方、工夫した点など具体的に記録し全職員が確認するよう取り決めている。 介護記録から情報を収集、共有し介護計画の見直しに反映できている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	全身症状の悪化によりホームでの生活継続が限界に近くなった入居者に、地域の医療機関と連携をとり馴染みの生活環境と馴染みの職員によるケアの継続に取り組む事ができた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の趣味・特技が発揮できる地域ボランティアとの協働に取り組んでいる。 校区民生委員の方に運営推進会議に参加していただき、地域資源の情報提供を得ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の美容室への外出が困難な方に、訪問美容ボランティアを利用し、生花・習字等の趣味活動が楽しめるよう地域の方のボランティアを活用している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の導入について地域包括支援センター職員と協働している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要と判断した場合は、状況を家族に報告し希望や同意を得るようにしている。 受診結果は家族へ報告している。 定期的に受診している入居者の受診状況は記録に残し、面会時報告している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の精神科・脳神経外科を受診し相談できる体制ができている。 個別に近医の心療内科を受診する場合もある		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日の介護記録を基に連携を密にとるように心がけている。 地域医療機関の看護職員と相談しながら健康管理に留意している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に支援方法や注意事項等の情報を提供している。 入院によるダメージを軽減するための話し合いを家族、医療機関と行っている。 時々、見舞いに行き医療機関との信頼関係を築くよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における事業所としての支援方法・方針を早期から家族と話し合うように努めている。本人・家族の希望や意向を聴取し双方が納得した上で方針の統一を図っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者が重度化した場合の対応について、困難な事、不安な事等を職員間で話し合っている。急変した場合の対応や搬送方法について周知し、かかりつけ医との連携に努めている		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことになった場合、本人の状況、習慣、性格、注意が必要な事等、プライバシーに配慮しつつ情報提供し、住み替えにダメージが最小限となるよう取り組んでいる。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や歯磨きの声かけ・誘導はさりげなく、他入居者に目立たないように配慮している。 介護記録・面会記録・職員の申し送りノート の保管、管理に注意し他者の目に触れないように配慮している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出掛けたい場所・食べたい物・買いたい物・したい事等本人に決めてもらっている。意思表示が困難な方は、日々の行動や表情・家族から情報を得、自己決定を支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の表情や会話の中で、その人がしたい事・思いを読み取り、その方のペースを大切にしている。 食事の時間や場所はスタッフ側の都合で決めず柔軟に対応している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	使い慣れた化粧品を電話注文している方・行きつけの美容室を希望する方等自宅生活の継続がができるよう支援している。 夕食前に入浴を希望される方には食堂での身だしなみに気を付けている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気の合った入居者が楽しく食事できるように配席に気を配っている。 職員も一緒に席に着き、混乱のある方や食べこぼしのある方には、さりげなく職員が声かけを行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常会話の中から個人の嗜好品を把握するよう努めている。 本人からの訴えがない場面でも、毎日の献立やおやつに取り入れるよう工夫している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて個々人の排泄パターンを全職員が把握できている。 尿意の低下した入居者にも終日オムツを使用せず、日中は布パンツにて対応し時間毎の誘導を行っている。 気持ちの良い排泄ができるよう、状況の見直しを常に心がけている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や時間は希望に添っている。 入浴を拒む方には、声かけの工夫・タイミング等に配慮し、好みの入浴剤を使用し楽しく入浴できるよう支援している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠の訴えがある入居者には、すぐに誘眠剤に依存せず温かい飲み物を勧めたり、職員とお喋りしたりして安眠を促している。 個々の生活リズムを把握し、昼寝の習慣のある方には適度な休息がとれるよう支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの性格や出来そうな事を職員は把握し、その人が力を発揮できるような場面作りをしている。 朝の挨拶やピアノ演奏を担当してもらい、入居者同士がお互い楽しめるよう支援している		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ、買い物を楽しめるよう支援している。 金銭管理が困難な方は、ホーム内に模擬店を開き買い物を楽しんでいただいている。 希望を訴えない方には「買い物の日」を利用し、職員から誘う場合もある。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添い日常的に散歩へ出かけ、季節を肌で感じてもらっている。 外出の行き先などは事業所で決めず入居者の希望に添っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「行ってみたい」との入居者の思いが出された時は、実現に向け取り組むよう職員間で話し合っている。 家族と一緒に出かける場合は、注意する事などを伝え一緒に支援していくことを大切にしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族への電話は希望に添っていつでもできる。プライバシーに配慮しつつ必要時は援助できるよう見守っている。 職員から家族へ手紙を出す時、本人の手紙を同封する事もある。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は特に設けていないのでいつでも面会できる。居室で家族だけで寛いだり、談話室で談笑したり自由に過ごされている。職員はお茶を出す際、近況などを報告している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会で職員の共有認識を図っている。 身体拘束に繋がるような言葉かけがないか等話し合う機会を設けている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が1人で外出しそうな時は、さり気なく声かけしたり、一緒に散歩して気分転換を図り鍵はかけていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、入居者の所在や様子は把握するように見守っている。一人での外出傾向にある方は、職員間で伝達し安全を確認している。居室で休憩している時は、さり気なく訪室している。夜間は物音が聞こえやすいように職員の居場所を工夫している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は、活動時職員が付き添って見守っている。活動終了時、所定の場所に保管し安全に努めている。洗剤類は家事室に保管し、薬はスタッフルーム保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為、環境整備・食事形態の見直し等一人ひとりの状態に応じて検討している。事故防止マニュアル・発生時マニュアル・再発防止のための今後の対応策を全職員が周知徹底できている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法や応急手当についての勉強会は年に1回行っている。 夜間・日中を通して緊急時対応マニュアルを作成しており、マニュアルに沿って速やかな対応ができる体制はできている。	○	心配蘇生法やA E D使用法について繰り返し体験・体得し実際の場面で活かせるような技術を身に付ける。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と一緒に避難訓練を行っている 消火器の設置場所・避難経路は全職員が周知徹底できている。災害発生時マニュアルに沿って行動できるように訓練している。 食料・飲料水等は確保できている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	下肢筋力に低下がみられ転倒の危険が出現したり等、今後予測されるリスクについて家族と話し合い、予防策を検討している。 状態の変化に応じ、アセスメントを実施、速やかに対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況の把握に努め、食欲や顔色・排便状況等の変化に注意している。変化や気付いた点があれば、申し送りで情報を共有し記録に残し、必要時は主治医・家族に報告している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人カルテに綴じて常に確認できるようにしている。与薬マニュアル・与薬チェック表により誤薬防止を行っている。 状態の変化等あれば、主治医へ報告し指示を得ている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品を献立に取り入れ便秘予防に繋げている。 適度な運動・水分補給を促し、腹部マッサージにて自然排便をできるよう取り組んでいる		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、その方の力に応じ支援している。 生活習慣により1日1回のみ歯磨きをする方や、開口が困難で奥歯の歯磨きが不十分な方は、訪問歯科回診を受け定期的に口腔状態を診てもらっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量は記録に残し職員は情報を共有している。水分摂取チェックの必要な入居者も記録している。栄養バランス・摂取カロリー等については、法人の管理栄養士のアドバイスを得ている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会にて予防法、対応についての取り決めがあり実行している。手洗いの励行を徹底し、ペーパータオルを使用することで感染を未然に予防する取り組みを行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきん等は毎日夕食後除菌している冷蔵庫内は定期的に掃除を行い、賞味期限を確認している。新鮮で安全な食材を使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチを置き、寛げるように工夫している。季節の花や植物で明るい雰囲気作りを心がけている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「和」を基調とした雰囲気に合うよう廊下の手摺は、木製を使用し暖かさを演出している浴室・トイレ等の目印は入居者に書いてもらい、居場所として親しみやすい環境となるよう工夫している。料理する音や臭いで生活感を採り入れるよう心がけている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員と1対1で話したい時、気の合った入居者同士談話したい時、独りになる時間を過ごしたい時等、その時の思いに添えるよう廊下に椅子を設置している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人・家族と話し合い自宅で使い慣れた物を持って来ていただいている。仏壇や使い慣れた筆筒・食器棚等で居室はそれぞれ個性がある。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	2時間毎の換気と、室温は夏季27℃・冬季22℃を目安に調節している。トイレは換気扇と消臭剤の使用、こまめな汚物捨てにより悪臭の予防に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じ、常に生活環境を見直すよう努めている。居室内の家具の位置や活動意欲を低下させるような環境となっていないか等検討している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を招くような環境・物品がないか自立した生活の妨げとなっている物はないか職員間で検討する機会を設けている。問題が発生した場合は、速やかに対応している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花や植物を植えており、入居者が水をまいたり、草を取ったりして楽しんでいる。ベンチでは日向ぼっこや会話を楽しんでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の 2 / 3 くらいの
				③利用者の 1 / 3 くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に 1 回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の 2 / 3 くらいが
				③利用者の 1 / 3 くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の 2 / 3 くらいが
				③利用者の 1 / 3 くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の 2 / 3 くらいが
				③利用者の 1 / 3 くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の 2 / 3 くらいが
				③利用者の 1 / 3 くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の 2 / 3 くらいが
				③利用者の 1 / 3 くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

木の温かみのある落ち着いた生活空間の中で、一人ひとりの個性を尊重し、ご入居者の方にとって「第2の我が家」となるよう生きがいのある楽しい暮らしを支えます。

お買い物やお芝居見物など、気心の知れた仲間達と出かけて地域の方々との交流を支援します。
季節の旬な食材を取り入れ、栄養バランスの摂れた美味しく、楽しい食事を提供します。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出来る限り住み慣れた家庭や地域で安心して暮らしていけるように、又地域での福祉の向上に寄与することを基本理念に謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時、声に出し確認し合い、全職員で理念を共有し、実践に取り組んでいる。 住み慣れた地域で買い物したり、美容室へ出かけたり馴染みの人と交流できるよう支援し記録に残している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議に家族・地域の方々の出席を頂いているので、会議の中で地域交流に取り組んでいる内容や問題点を報告し、意見や助言を得ている。面会時や見学時に分かり易い言葉で理念を伝えるように取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方とお会いした時は、笑顔で挨拶するよう心がけている。 地域の方々が気軽にボランティアに来ていただけたよう1階フロアを開放し、生花や体操など交流を図っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生の仕事体験学習を受け入れたり・幼稚園・保育園の発表会に参加している。また、事業所の夏祭り等の行事に参加して頂いている。町内清掃などの地域活動に参加し、地元の方々との交流に努めている。	○	町内会に加入しており、お誘いや案内をいただいている。ホームとしては入居者の希望や意向に沿うようにしている。本人の身体的・精神的負担を心配している家族もいるので今後の方針を検討していく。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の日常生活支援を第一に考慮しつつ、事業所の知識や経験を地域の方々に還元できるように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	提供しているサービスを振り返り、見直す機会となるよう全職員で取り組んでいる。地域密着型サービスとして入居者が孤立することなく地域の一員として生活する大切さを周知徹底できている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価項目・外部評価項目を会議の議題に挙げ、出席者から意見や助言を得ている。評価結果はホーム便りで公表すると共に全家族に配布している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営やサービスの課題解決に向け助言を得ている。市担当窓口に行き来し、連携して課題解決を図るには至っていない。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内勉強会で学ぶ機会を設けている。運営推進会議で家族に情報提供を行っている。地域包括支援センター職員から事例提供などを得る機会があり職員は理解を深めている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を全職員が確認し、意識を徹底している。ミーティングの場で、定義や通報の義務を周知徹底できている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間をとって丁寧に説明している。契約改訂時は丁寧な説明を行い、同意書を得ている。状態変化により契約解除に至る場合は、十分な説明と情報提供を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者との信頼関係を深め、意見 や苦情を出しやすい心がけている。意見・苦情が聞かれた際は速やかに対応し、 報告書に残し委員会に報告している。その 後の対策や改善策はホーム新聞や掲示板に てお知らせしている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	月 1 回の法人新聞とグループホーム新聞・ 手紙にて毎日の暮らしぶりや健康状態・職 員の異動などのお知らせを行っている。金 銭管理は月 1 回明細書を送付している。 定期以外に必要時はその都度連絡をとって いる。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	提供しているサービスを常に見直し、家族 や第三者の立場に立って客観的視点で取り 組むよう心がけている。 意見箱の設置・公的相談窓口の説明を行っ ている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員の意見や要望は報告会で表している。 毎月 1 回職員連絡会議を開催し、運営者と 全職員がミーティングを行い情報交換して いる		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者の状態やペースに合わせたローテー ションを組んでいる。職員の急病や急な休 みの時は、勤務変更し入居者の日常生活に 支障を来たす事がないよう調整できてい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代する場合は新しい職員への引継ぎに 十分時間をとり、アセスメント表による情報収 集やケアプランの説明を細かく行い、入居者 個々の生活に影響を与えないように取り組んで いる。職員との顔馴染みの関係を大切にする 為、各ユニット職員は固定化している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢など制限は設けていない。 職員の得意分野や能力を活かし、自己実現に向け生き生きと勤務している。 (手話、料理、工作、ピアノ演奏など)		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内勉強会で入居者の人権尊重について学ぶ機会を設けている。 日々の介護現場やカンファレンスにおいて人権尊重の意義について情報共有できている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内勉強会に外部から講師を招き学ぶ機会がある。勤務上参加できない職員には資料を配布し知識の共有を図っている。 施設外研修に参加した職員は研修内容を全職員に報告している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修等に参加し他事業所職員との交流を図り、意見交換や情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。不定期ではあるが他事行所を見学したり、他事行所からの見学を受け入れ交流を図るよう努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職務上の困難や悩み事等は介護現場で情報を共有・話し合い・解決に向け取り組んでいる 話し合った内容は運営者に報告し助言や指導を得ている。休憩の場所は談話室を利用し、入居者と少し距離を置き気分転換し、ストレスを溜めないよう工夫している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得の為の情報は常時閲覧できる場所に掲示し、必要時はアドバイスを 得ている。運営者は現場に来て、入居者や職員と談話することで健康状態や日常生活について把握できている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談では十分な時間をとり信頼関係を築くよう取り組んでいる。入居に不安を持っている場合は遊びに来ていただくなどして不安を軽減できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談ではゆっくり話を聞き、多方面からの情報提供を行っている。認知症による行動障害や介護者の不安などを家族と話すことで、信頼関係を築き家族の気持ちを受け止めるよう努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所としてできること、できないことを見極め、地域包括支援センターや他事業所のケアマネと連携をとるよう努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事業所を見学していただき、雰囲気馴染むため遊びに来ていただく事もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や裁縫、着付けなど入居者から教えていただく場面作りを心がけている。入居者を人生の先輩として尊び、互いに支えあう関係作りに努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	その人らしい生活を継続する事を目的に、家族と話し合い、自宅から馴染みの物を持って来ていただき精神的安定を図る等、協力して本人を支える取り組みをしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、自宅に居た時のように居室で寛いでいただいている。 季節の行事には家族に参加を呼び掛けて、良い関係が継続できるよう取り組んでいる。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室・病院・スーパーに出かけ、馴染みの関係が途切れないように支援している。外出先では顔見知りの人と挨拶したり、お喋りを楽しんでいる。	○	心身の状態低下などで馴染みの関係が途切れないよう支援を継続していく。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者の力や個性を発揮できるような場面作りを行い、入居者同士の関係が円滑にいくよう職員が調整役となっている。 朝の挨拶・配膳、下膳の助け合い・入居者間の相性等支援を行っている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	心身の状態変化等で事業所を転居した入居者との関係が途切れないように心がけている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から、本人の思いを把握し趣味が活かせる場面作りを行っている。 意思疎通が困難な場合は、本や写真を見ていただきながら反応・行動・表情を観察し思いを汲み取っている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等から生活歴や自宅での暮らし方について聴き取るようにしている。 毎日の会話からも折に触れ情報の把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活から一人一人の行動や習慣を観察し、生活リズムや変化を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の要望や意向を踏まえ、カンファレンスを行い計画作成担当者を中心にチームで介護計画を作成している。丁寧に説明を行い同意を得、家族へ交付している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前に状態変化があれば、カンファレンスを実施し介護計画を見直している。入居者が入院した場合、医療機関と退院前カンファレンスを開催し情報収集を行い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の暮らしぶりや会話、気づき等、生活に関する情報を詳細に残している。職員は、業務開始前に必ず確認している。介護記録から情報を収集・整理し介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院治療が必要となった入居者に、顔馴染みの職員が見舞いに行き励ましたり、希望や要望を聴き取り、環境の変化等による不安の軽減に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの協力を得て、入居者が趣味・特技を発揮できるように取り組んでいる。運営推進会議に校区民生委員の出席をいただき、地域資源の情報収集に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	自宅での生活が困難になった時等、地域のケアマネージャーと情報交換し、サービスの利用に繋げている。入居後も、新しい生活に馴染んでいただくまで顔馴染みのデイサービスに遊びに行く等支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得、地域の情報や困難事例等、支援に関する協力関係を築いている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。馴染みの関係となっているので健康管理や心配事など、気軽に相談できる。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に精神科・脳神経外科があり必要時は指示や助言を受けている。認知症による行動障害等、困難な事例は心療内科を受診し、相談することもある。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員が受診に同行し、かかりつけの医療機関看護職員と健康管理や注意事項など気軽に相談している。入居者に状態の変化など気になることがあれば、電話にても相談に乗ってもらえる。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には必要な情報提供を行っている。入院中も職員は面会に行き状態を把握するよう努めている。退院前には、医療機関とカンファレンスを開き情報収集している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における本人・家族の意向を聴取し、事業所としての方針等を早期から家族と話し合っている。 事業所のできる最大限のケアを説明し、予測されるリスクについても説明している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合の本人の希望や家族の意向を聴き取りながら職員間・関係部署で話し合いを行っている。急変時は速やかに対応していただける協力病院を確保している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居前カンファレンスを関係者間で開き、情報交換している。 生活歴や性格、注意する点等の情報をプライバシーに配慮しつつ提供している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄援助、歯磨きなどの声かけはさりげなく他者に聞こえないように行っている。 個人記録などは他者の目に触れないよう保管している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活のなかで選択できる機会を意識的に提供している。(食べたい物・したい事等) 意思表示が困難な方には、表情を読み取るよう心がけている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日・入浴時間は一人ひとりの希望に添って柔軟に対応できている。 一日の生活リズムはおおまかに決めているが無理強いせず、居室でゆっくりしたい方やレクリエーションへの参加を好まない方は個別に対応している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望時には行きつけの美容院へ出かけ、カット、パーマ、マニキュア等を自己選択している。本人が気付かない場合は職員がさりげなく声をかけている。行事、外出時には服を一緒に選び、目的に合ったおしゃれを支援している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや力量に応じて職員と一緒に準備・調理・片付けを行っている。献立に合った食器を使用し食事の楽しさを演出している。季節感ある食材を献立に取り入れている。出前やバイキング等お楽しみ会を開催している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	折に触れ入居者の嗜好品を聞き、おやつや献立に取り入れている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて一人ひとりのパターンやペースでトイレでの排泄が継続できるよう支援している。尿意の低下により紙パンツや尿取りパットを使用している入居者も排泄パターンを把握し布パンツへの移行を検討する等諦めず努力を続けている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日・希望する時間に入浴している入浴を拒む方には、興味のある話・得意分野の話・昔の話等声かけの工夫をし、気持ち良く入浴できるよう取り組んでいる。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや趣味活動への参加を促し、夕方からは静かなBGMを流し生活リズムを整えるよう心がけている。夜眠れない方には、温かい飲み物を勧めたり添い寝をして安眠できるよう取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮できるよう本人の力に応じた仕事をお願いしている。職員が一人ひとりの「できること」「少し援助すればできそうなこと」を見つけるように努め、役割・楽しみごとに繋げている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	意思表示できる方は希望に添いお金を持ち、使えるように支援している。意思表示が困難な方は「買い物の日」に、職員側から意識的に声かけを行っている。金銭感覚が低下してきた方はホーム内に模擬店を開き、買い物を楽しんでいただいている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じてもらえるよう戸外に出る機会を心がけている。歩行が困難な方はベランダで日向ぼっこしたり、お弁当を食べていただく等工夫している。	○	入居者の安全に十分配慮し、気分転換に繋がる外出援助ができるよう取り組んでいく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	故郷のお墓参りに行きたいとの希望を訴える入居者に家族と連携をとりながら実現に向け取り組んだ。入居者の想いや希望を聴き取り、家族と情報交換しながら実現に繋げるよう努めている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しつつ、本人が困った時や助言が必要な時にフォローできる距離を保って見守っている。本人に手紙を書いてもらい職員の手紙に同封する取り組みも行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は設けていないので、昼間面会に来られない家族は夕方仕事帰り等に面会に来られる場合もある。職員はお茶を出す際に近況を伝えている。明るい対応と笑顔を心がけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的・精神的弊害について全職員は認識し、「拘束をしないケア」を徹底できている。 自覚しない身体拘束が行われていないか等、職員間で話し合う場を設けている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が独りで外出しそうな時は、さりげなく付き添い安全確保に努めている。 鍵はかけていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアで過ごす入居者が多いので担当を決めて、趣味活動やレクリエーション活動を通じ見守りを行っている。居室で過ごしている入居者はさりげなく訪室し安全確認している。夜間は、物音が聞こえやすい場所で記録等し、速やかな対応を心がけている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い針・ハサミ・包丁など本人の認知力や管理能力に応じ危険防止に取り組んでいる。 洗剤や消毒薬は家事室に保管している。 薬などはスタッフルーム内の棚の中に保管し誤薬事故を防止している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の状況から予測される危険を職員間で検討し、未然に防ぐ方法を話し合っている。 事故やヒヤリハット報告・再発防止策を事故対策委員会に提出し、全部署で周知徹底する体制がある。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯・夜間帯とも緊急時対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。 年1回の応急手当の勉強会を実施している。	○	救急救命法やA E Dの使用法に不安を持つ職員がいる。体験・体得できる機会を作りたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難経路の周知徹底を行い、火災発生時対応マニュアルを整備している。 年2回入居者と一緒に避難訓練を行っている。 非常用食料や飲料水・備品は準備している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得る個々人のリスクについて職員間で検討し、家族へ報告している。 対応策などを家族と話し合い、入居者の安全確保に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の様子を把握し変化や異常が見られた場合は、速やかに報告・記録し早期対応に心がけている。 必要に応じたバイタルチェックを行い、記録や申し送りで情報の共有を図っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から出される個々人の薬剤表をカルテに綴り、常時確認できるよう整備している。医師からの指示や薬の変更があった場合は、確実に申し送り全職員が周知できている。状態変化がみられた時は、医師へ報告している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や野菜などを献立、おやつに採り入れている。水分補給と適度な運動を心がけ自然排便を促すよう努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけを行っている。本人ができるところは自分でしていただき、できないところを手伝っている。 拒否がみられた場合は、声かけの方法やタイミングを工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士から栄養バランスについて助言を得ている。 食事摂取量は毎食記録に残し、把握するようにしている。摂取量の増減など問題発生時はその都度検討している。 水分摂取はこまめに行っている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会を設け、予防や対応の取り決めが整備できている。 季節、地域の感染症発生状況などは地域医療機関から情報を得ている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一人分の必要摂取量を把握し、一日分の必要食材量を購入、その日の内に使い切るようにしている。 まな板、フキンなどは毎日漂白し除菌している。冷蔵庫の整理、掃除はチェック表を使用し実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチを置き、日向ぼっこやお喋りを楽しめるように工夫している。 季節の花を植えたり、生花の得意な入居者に花を生けていただき、明るい雰囲気作りを心がけている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の飾りつけは幼稚な物とならないよう配慮している。季節感のあるディスプレイとなるよう入居者と一緒に考え、作成している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に数箇所椅子を設置し独りで過ごしたり入居者同士で過ごす空間を設けている。 仲の良い入居者数人で会話を楽しんだり、入居者とスタッフが1対1で関わり、困り事や相談事を聞く空間としても利用している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で慣れ親しんだ家具や調度品を持って来ていただくよう、本人と家族にお願いしている。 仏壇や神棚を持って来ている方は、朝夕手を合わせ自宅生活での習慣が継続できている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	2時間毎の換気を心がけている。掃除時間や食事作りの後は窓を開け換気している。 冬季は22℃、夏季は27℃を目安に温度調節している。冬季は加湿器を使用し乾燥防止を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力低下や視力低下等状態の変化に応じて家具の配置を検討したり、危険な物はないか点検している。危険が予測された場合は家族と相談し改善を図っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を招くような環境はないか、失敗に繋がる物はないか職員間で話し合い、環境整備に努めている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで洗濯物を干したり、花を育てたりし活用している。 天気の良い日はベランダを利用しお弁当を皆で食べ楽しんでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

木の温かみのある落ち着いた生活空間の中で、一人ひとりの個性を尊重し、ご入居者の方にとって「第2の我が家」となるよう生きがいのある楽しい暮らしを支えます。

お買い物やお芝居見物など、気心の知れた仲間達と出かけて地域の方々との交流を支援します。
季節の旬な食材を取り入れ、栄養バランスの摂れた美味しく、楽しい食事を提供します。